

第18回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第18回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和5年5月30日(火) 開会 午前9時00分 閉会 午前10時30分
会 場	市役所3階第3委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：向門市長、佐々木教育長、古澤教育委員、戸田教育委員、森田教育委員、大石教育委員 事務局：姉川教育部長 佐藤教育総務課長 城島教育総務課総務係長 説明員：古賀学校教育課長 立石学校給食課長兼学校給食センター所長 牛嶋生涯学習課長兼図書館長 井手学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事 守田学校教育課教育指導係長兼指導主事 古賀学校教育課インクルーシブ教育推進係長
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆鳥栖市の教育に対する考え方(教育理念)について
発 言 者	内 容
佐藤教育総務課長	本日の進行を進めさせていただきます。ただいまから、第18回鳥栖市総合教育会議を開催いたします。本日の協議事項といたしましては「鳥栖市の教育に対する考え方(教育理念)について」ということで、向門市長からご自身の教育に対する考え方についてお話をいただいた後、教育委員の皆様とディスカッションをしていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。それでは、以下の進行につきましては、主催者であります向門市長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。
向門市長	皆さんおはようございます。第18回鳥栖市総合教育会議ということでございます。最近の出来事とか事情を踏まえたうえで、私の感じていることとお話しさせていただければと思います。4、5日前に、長野で殺人事件が起きていまして、最近特にそういった殺人事件をすぐ目にする機会というか報道が多くて、こんなに簡単に人を殺めるような社会になったのかというのが、すごく心配なことの一つだと思っています。鳥栖市内でも殺人事件が起こっていて、そのようなことに至ってしまったということ、現実として我々も受け止めなくてはいけないだろうと思っています。その原因が何か

ということは、色々な事情があるかと思いますが、そういう状況になるということは、我々もしっかりと考えていかなければならないことだと思います。命の尊さ、生命の尊厳について、教育の場としてそれをどう教育をしていくのか、当然学校現場だけではないと思いますので、それについて保護者に対してもどういった連携を取っていくのか、それともう一つは、地域社会も一緒に子どもたちを育てていくような環境というものを作っていかなければならないと思います。大人もそうでしょうけど、コロナ禍でしばらく外出することができない時期があつて、そういったところから様々な問題が発生しているのかなと思います。私見ですが、何となくそんなふうに感じているので、そういった子どもたちをもっと外に出してもらおうというようなことも、今後考えていかなければならないと思います。あと、地域のつながりや保護者とのつながりをどうやって深めていくかということも、学校現場だけじゃなくて考えていく必要があると思っています。

全く話は変わりますが、今月の土曜日に2週続けて、中学校の体育大会にお邪魔させていただきました。そこで、ほとんどの子どもたちがマスクを付けていたかなと思います。走っている子たちもマスクを付けていて、マスクを付けるか付けないということではなくて、「マスクを外していいですよ」ということになっても、外していないということですよ。体育大会の様子しか見ていないですが、学校現場でも皆さんマスクを外していないのではと思ひまして、外さなければならないというわけではないですけど、「もう外してもいいですよ」というところで外していない状況はどうなのかなと、ちょっと気になっています。やっぱり、皆がそうしているからそうするということなのかなと思ひました。その辺はどのような状況なのかなということが一つありました。

あと一つは、地域とのつながりを深める手段の一つであるスポーツですが、どうやって地域で子どもさんたちを受皿として受け入れるのかということがあります。それともう一つは、地域の伝統ですね、地域で獅子舞を舞う、そういった文化、芸術の中にも、子どもを引き寄せて、その地域社会の中で育てていくということに取り組むべきではないかと思っています。特に鳥栖市は人口や世帯数も増えていて、市外から転入してきた人が多いのではないかと思っています。その方々と、昔から市内に住んでいらっしゃる方々との融和というか、そういったものをどうやっていくのかということも、鳥栖市ならでは課題だと思います。

佐々木教育長

市長にお伺いしたいのですが、私は今日本の世の中がすごく不安

	<p>定というか、社会のあり方、家庭のあり方、それから学校のあり方というものがすごく不安定で、子どもを取り巻く環境がすごく不安定な状態になっていると思っています。それで子どもが進むべきところが明確に定まってないっていうか、うまく子どもを育てることができていないような気がしています。例えば、地域では「まちづくり推進協議会」を立ち上げて、地域のつながりを大事にしようとしているところがあります。それから家庭では、家庭教育を大事にしようとしていますが、その親の働き方が変わってきていて、比較的學校に教育を任せていて、家庭の力というものもどうなのかなと思います。そういう意味で、學校の教育力、それから家庭の教育力、地域の教育力というものが、弱まってきているのではないかと考えています。そこを今後どう進めていくかというのも悩むところではあるのですが、市長はどのようにお考えですか。</p>
向門市長	<p>私は、それが一番根本的に難しいところだと思っています。社会が変わっているスピードが早過ぎて、十年一昔という言葉がありますけど、もう一年が一昔で、十年前の事をそのまま今やろうとしても全然当てはまらないこともあります。今はA I時代が到来しており、それをどう操っていかなければならないのかというような時代に入っていると思います。臨機応変というか、時代に即した教育をやっていかないと追いついていかないと気がしていて、そこがすごく心配でもあります。</p>
大石教育委員	<p>私は、保護者という視点からのお話をさせていただこうと思います。佐賀県は、全国的にもICT化がとても早くていいのですが、それに併せて先生方もレベルを上げなければならないということで、大変ご苦労していると思います。それに伴って、市長がおっしゃったように、このスピード感あるこの時代の流れに沿って、先生方がどれだけ追いついていけるのかということも、大変大きな問題になっているのかなと思っています。そこら辺は今後しっかり考えながらやっていかなければならないという感じはしています。</p> <p>教育長のお話にもあったとおり、家庭教育もしっかり今後考えていかなければならないというところは、私も全く同意で、一保護者として、子どもにどう向き合いながらやっていくのかということも、各家庭でやり方がそれぞれあるとは思いますが、私はたまたまPTAの役員をさせていただいているので、皆で団結して情報共有しながら、先生たちに寄り添いつつも、やっぱり自分の家庭を自分で身をもって、そこで分からないことがあれば相談できるような場をもっと増やしていければいいのかなと考えています。特に家庭教育については、時代とともに多分変わっていくものだと私自身は</p>

	<p>思っています、昔はこうだったからこのとおりにしなさいというわけにいかないと思います。向門市長の考えとして、家庭教育はどうあるべきなのか、どうあって欲しいのかというご見解をお聞かせいただけるとありがたいと思います。</p>
向門市長	<p>私は子どもには自分の価値観があって、自分で一生懸命成長しようと自立しようとしているので、私もすごく反省したのですが、親の価値観で「こうあるべき」「こうしなければならない」というのを押しつけるべきではないと思います。私自身も子どもの反発を叱りつけるというやり取りをしている中で気が付いたことは、子どもは自分の人生を歩もうとしている、それを親としてはしっかりと認めてあげて、そうするために子どもに寄り添って、子どもの目標に向かってどう親が後押しできるのかということを考えなければならないということです。おこがましく子どもを教育するというのではなくて、子どもが成長していこうとしていることに対して、親が手助けをしてあげて「あとは自分の人生だから、自分で歩いていきなさい」ということが大事だと思います。それが正しいかどうかは分かりませんが、親の価値観を押しつけるような教育の時代ではなくなっていると思います。それこそ情報があふれている時代で、スマートフォンを利用して、大人の知識以上の事を調べることができるので、あえて教えなくてもいいと思っています、それよりも保護者と子どもがしっかりと信頼関係を築いている家庭であるということが大事なのかなと思います。</p>
大石教育委員	<p>全くおっしゃるとおりかなと思いました。多様性を大事にする時代になっていますので、様々な方の発言を受入れながら、できることは対応していくというスタンスになってきていると思います。</p> <p>個人的な話で大変恐縮ですが、でもやはり日本の文化的なものが鳥栖市にも根強くあるのかなと感じます。特に女性に対してですが、学生でお化粧していると「学生はお化粧していけない」と周りから言われる。しかし社会人になると急に周りから「お化粧しないといけませんよ」と言われるとかですね。またお子さんを出産したら、お母さんになるわけですけど、初めてのお子さんが1歳でしたら、当然お母さん年齢も1歳なのですが、周りがそういうふうに見てくれないという状況がいまだに根強くあります。そういったところを皆さんに理解を深めてもらうというのは、鳥栖市だけの問題じゃないと思いますが、そういうところで人知れず悩んでいるお母様方も結構いらっしゃるという印象があります。その点についてはどうしてお考えでしょうか。</p>
向門市長	<p>初めて子どもを育てるわけで、そういった方々の悩みは当然ある</p>

	<p>と思います。昔は近くに同居している親やその方の母親がいて、あるいは祖母がいたので、色々な悩み事を相談できていたかもしれませんが。しかし今はそれができなくなっていて、夫婦でいらっしやったら2人で子育てをしなければならない。男性が仕事で家にいないときには、やっぱり女性が1人で悩まざるを得ない。多分そういう情報が少ないところを、いかにして気軽に相談できるような環境にするのかというところをやらなければならないと思います。私は、スマートフォンのSNSを使って、そういう悩み相談をいつでも受け入れられるような体制を作っていかなければならないと思います。こちらから一方的に情報発信するSNSではなくて、特に子育てとかで悩んでいる方の相談に乗れるようなSNSを構築できたらいいと思っています。</p>
大石教育委員	<p>もう1点だけよろしいでしょうか。市長が先ほどスポーツについても少し触れたと思いますが、今後の鳥栖市のスポーツに対してはどのようなお考えでしょうか。</p>
向門市長	<p>私は小学生から高校生までも野球をしてきて、今でも時間あったら野球とか色々なスポーツ観戦をしています。基本的にスポーツが好きです。スポーツでの感動とかもあります。私はスポーツの経験が、自分をすごく成長させてくれたという思いがあります。野球をする中で「挨拶をきちんとしなさい」「道具を大切にしよう」「相手の気持ちもしっかり考えながらやりましょう」ということを学んだという思いがあります。仲間と同じ勝つという目標のために努力して、試合で負けたら皆で泣く。それでまた友情を深めて、また次の目標に向かって努力をしていく。それが卒業した今でも先輩から後輩までずっとつながっていますし、鳥栖高校だけかどうかは分かりませんが、世代を超えて野球部でつながっているというような人生を私は送ってきました。空手や柔道、他のスポーツでも同じだと思います。スポーツは自分を成長させてくれる場でもあり、仲間を作れる場でもあるので、ぜひそういう機会を皆さんに活かしていただきたいという思いが強いです。プロ野球選手になりたいとか、プロサッカー選手になりたいとか、そういう夢を追いかけることも素晴らしいことだと思いますけれども、それぞれにその過程の中で色々な人生経験が積める場所なので、ぜひスポーツを通して人生を楽しんで欲しいという思いが強いです。</p>
大石教育委員	<p>ありがとうございました。大変うれしいご答弁いただいたなと思いました。保護者としても、今子どもたちが置かれている現状というものが厳しくて、種目によっては部活動がない校区もあつたりもしますし、野球部は1人も入部できませんというところもあります。</p>

	<p>これから地域にもご協力いただきながら、部活動そのものが変わっていくとは思いますが、本当に市長がおっしゃったように、子どもたちがスポーツを通して得るものは大変大きいと思っていて、そうなってくると行政側の協力も必要となる場面が絶対出てきますので、その時にぜひとも前向きにご検討いただけるとありがたいなと思いました。</p>
森田教育委員	<p>中学校の部活動は、社会体育に移行しようとしている中ですので、会場の確保とか、中学校の先生方の指導方法をどうしたらいいのかとか色々悩みが多いです。陸上競技場を例えば週2回、午前中だけでも、小学校中学校全部が使えるような方向になればいいとか。あるいは、野球であれば一つの学校じゃなくて、皆で練習できる日が例えば月に1回でもいいのであればいいとか。指導していただける知識豊富な方々がいらっしゃって、少しずつそれをやれるような方向に市の行政関係の方々にもご協力いただいて、やっていけたらいいなと思ったりしています。一番皆さんが心配しているのは、やっぱり会場の問題ですね。どうしても学校の体育館やグラウンドをどうしたら使えるのかとか、一般の方々は知らないということもあります。あと、指導者を確保するところもかなり厳しくて、そういったところの情報を各種目の団体は持ってらっしゃると思うので、そういったところの情報を共有していけたらいいなと思います。中学校だけじゃなく小学校も高校も一緒にスポーツできるような感じになっていけたら、鳥栖市のスポーツはもっと伸びていくのではないかなと思います。私の意見ですけど、市長はいかがでしょうか。</p>
向門市長	<p>中学校の部活動の地域移行ですが、先ほど言われたように指導者をどうするかというのと、もう一つは場所をどうするかという問題があります。行政としても、社会体育として受皿がどうできるのかというのを考えています。要は、野球とかは意外と受皿があると思いますが、種目によっては子どもに教えることができる先生方がいない。平日は学校の先生が教えて、土日だけ違う先生が教えるというやり方もどうなのかなと個人的には思っていますが、例えばバレーボールは鳥栖中学校の体育館に集まるとか、バスケットボールは田代中学校の体育館に集まるとか、そういったことを教育委員会や現場の先生とどうあるべきか協議をしていかなければならないと思っています。種目によって対応は変わってくるのかなという感覚はあります。野球とか人気スポーツは合同でできることもあるでしょうし、チームの存続自体ができなくなっている競技もあるので、その辺も含めてしっかりとコミュニケーションを図って、来たるべきに向けてやらなければならないと思います。</p>

佐々木教育長	<p>今の部活動の地域移行は、とても課題がある問題です。私は40年近くバレーボールを教えてきました。先ほど市長が言われたように、私はチームとして弱くても自分たちで考えてやっていくという良さも感じています。勝利至上主義で練習しているチームを見ながら、それじゃ子どもは育たないのではないかと思う面もあったりしています。ただし、やっぱり頂点を極めていくっていうようなスポーツも必要だと思います。部活動がどちらの面も持ってやっていくっていうのは難しいという思いもあります。やはりチームワークを高めていく、それから自分なりの課題を解決していくような、今までの学校教育の中の一環としてやっていく部活動と、それから選手として育てていく部活動と、ある程度目的をしっかりと分けて、その環境というか体制を作っていくかといけないのかなと思っています。まだ具体的な案はないですが、それを子どもたちの中で、きちんと選択できる環境をこれから作っていくかといけないのかなと思っています。</p> <p>それから、これは私の私見ですけれども、様々な競技があって、子どもたちにその競技の場を与えてあげるということはとてもいいことだとは思いますが。ただ、例えば佐賀県内でも、山奥の学校では部活動の種目が剣道と何かというような学校もあります。それから、福岡県のある島の学校では、部活動の種目はバレーボールと卓球しかないというところもあります。でもその学校のバレーボール部は、県の選抜にも入るぐらいのチームになっています。子どもの環境は、どれだけでも与えてあげれば、それはそれで素晴らしいことかと思いますが、今ある環境でそれを選択してやっていくということも必要なのかなと思います。全ての子どもたちが満足できるような環境を提供するというは無理なわけで、今ある環境の中で子どもたちが何を選擇するかということも、ある意味必要な部分かなと思っています。答えが出ているわけではありません。そこで私も悩んでいます。</p>
向門市長	<p>私からちょっと聞きたいことがあります。教員の働き方改革の一つで、部活動を土日は切り離して地域移行のお話ですけど、実際先生方は、そういったことについて、今どんな思いなのでしょう。土日でもやっぱり子どもたちと部活動をやりたいという先生がいらっしゃるのか、その辺はどんな感じでしょうか。</p>
守田学校教育課教育指導係長兼指導主事	<p>そのことについて、アンケートを取りまして、その結果7割程度は移行したいという回答でした。</p>
佐々木教育長	<p>ただ何割かの先生は、もっと部活動に力を入れたいと思っています。</p>

	<p>っしやいます。その手だてとして、兼業としてやっていくということも、今後は国も考えていくのかなと思います。</p> <p>ただ、例えば土日を地域に任せるとなったときのことで、実は私も中学校のバレーボールの部活動で、土日の指導をしてもらえないかと依頼を受けたことがありました。私は教員をしていたので、顧問の先生のやり方を尊重して、その考えのもとに土日も指導するということは行うつもりではありました。しかし子どもたちにとっては、自分の考えで顧問の先生の考え方についていこうとか、そういったことがありますので、その辺の難しさがあって、悩んだ末に断りました。ですから、平日は学校の先生で、土日は地域の指導者となったときに、その指導の部分で子どもたちの中でその棲み分けがきちんとできるのかなと、私はちょっと疑問に不安に思っています。</p>
向門市長	<p>土日の指導者と平日の先生の考え方が違ったときに、子どもたちはどっちを優先するのかということがあると思うので、どっちかが遠慮して教えようとする、またそこでぎくしゃくしてしまうと思います。</p>
森田教育委員	<p>平日は学校で練習するので先生方の指導方法だと思いますけど、土日に関しては強制ではないので、私は土日の練習に参加したいという子どもさんだけが参加するものだと考えています。自分自身も合宿があったときには、私は陸上でしたが、高跳びのコーチや短距離のコーチから教えてもらって、そこでしっかり練習をしてから帰宅する。そして平日は、学校で顧問の先生から教えてもらって練習するということをしていました。土日はチームとして練習するという考え方を少し減らして、技術面を習得するために練習するという考え方に切替えたらできなくはないと思います。</p>
佐々木教育長	<p>森田教育委員の言われる棲み分けですね。私も指導者が自分の立ち位置を明確に持っていれば、そういう形はできるかなと思います。実際に私がバレーボールの指導していたときにも、中学生や高校生がそれぞれ色々な学校から練習をしに来ていました。そのときは、平日の部活動ではチームとして練習をして、私のところでは個人の技をいかに高めるかというところとかを練習していました。私は「この場で力をつけて、学校でのチームに貢献すればいいよ」ということを伝えていました。その棲み分けがきちんとできるのであれば、そういうやり方は効果的だと思います。</p>
向門市長	<p>これは大きな問題でありますので、これから試行錯誤しながらきちんと協議して深めていきたいと思っています。</p>
佐々木教育長	<p>冒頭でお話したことにつながることで、学校と家庭と地域で、私</p>

	<p>はそれぞれに役割があると思っていますが、その役割が今重なりつつあるのではないかと思います。家庭の役割であることを学校でやらなければならないか、それから地域や行政であったりする部分が結構多いのかなと思います。家庭での役割のよさとかもありますし、学校でのよさ、地域でのよさというものがあるかと思っています。けれども、それぞれのよさが今なくなってきて、役割分担ができていないような気がします。これは、これからの政策とかにも関わってくるかと思っています。例えば、昔でいえば中学校に給食がない時代に、弁当を作る負担が保護者にあるということでももちろんそれはありますが、ただ子どもに自分の思いを伝える一つの場として弁当がすごく意味があったかと思っています。しかし、給食という便利なほうに移行しようということがあったりします。また、昔は地域の人たちが見守っていた中で、子どもたちが学校から帰ったら地域で遊べるような安全な場があったわけですが、それが今は低学年を中心に放課後児童クラブであったりとか、そのようなところに通うようになって、そこで行政側であったりとか、そのようなところに任せて子どもを見てもらうということに変わっています。地域の人子どもたちと関わろうにも、なかなか関わる場というのはなくて、登下校の見守りとボランティアで学校に行くときだけになっていると思います。それで地域の人たちも子どもたちのことをあまり知らない、子どもたちも地域の人を知らないということになっています。本来ならば、地域の役割、家庭の役割、学校の役割があったところが、だんだんそれがどこの役割か分からなくなってきていて、ちょっと言い方が悪いかもしれないですけども、色々なものが学校側に来ているようなそんな印象を受けますが、市長のそこら辺のお考えはいかがでしょうか。</p>
向門市長	<p>そういった意味からすると、私は社会が変わったというふうに思います。私たちの親の時代は、父親は外で働いて、母親はどちらかという家庭にいたので、大体学校から帰ってきたら母親と色々な話をしていた環境があったと思います。それが父親だけの給料ではなかなか厳しい生活なるということで、どうしても母親も働かざるを得ない時代になっている。また母親も男女共同参画という時代なので、外で仕事をしたいという方々が増えた。そういう社会の中で、どうしても弁当を作る時間とか、子どもと接する時間が少なくなってきているのかなと思います。それはそれで、社会が変わってきているので、女性の方が社会に出て仕事をして、そういったことを行政やあるいは政治がきちんと見ていくというのは、世の中の流れとしては、すごく普通のことだと私は思っています。時代が変わって</p>

	<p>きているので、その変化についていかなければならないと思います。放課後児童クラブにしても、保育園にしてもそうですけど、女性が社会進出をして、女性も社会の色々な場で活躍していただかなければならないので、そのようなところでしっかりと子どもを預かる場を行政として確保することは、先ほど申し上げたように、社会の流れとして必要なことなので、それはそれとしてきちんと責任を持ってやっていかなければならないと思います。</p> <p>もう一つは、子どもたちの生活も変化しています。私たちの時代は土曜日が半日授業で帰っていました。平日は大体3時か3時半ぐらいに授業が終わって下校して、家に帰ったら宿題をして、大体親から宿題が終わったら遊んでいいよと言われていたので、それから外に遊びに行って、夕方の5時か6時ぐらいに帰ってくるような生活でした。しかし、今は土曜日の授業がなくなって、その分が平日の授業に振り替わっているので、大体子どもは夕方の4時半から5時ぐらいに帰ってきて、それから習い事があって、例えば少年野球であれば7時か8時ぐらいに帰ってきて、それでそれから宿題をして、夕飯を食べて、お風呂入ってという生活なので、子どもたちもすごく時間的に余裕がなくなっているのかなと感じます。土日もそういった習い事をするのであれば、一日野球をして帰ってくるような生活を送っていて、子どもたちも時間に追われてる気がするし、また保護者も時間に追われているような気がしています。多分学校現場からすると、家庭で宿題があまりできていないのを、結局学校に全部押し付けられているということもあると思います。ただ世の中が世知辛いというか、時間的に余裕がないそういう社会になってしまったということだと思います。その根本を変えないと、子どもが置かれている環境、保護者が置かれている環境というのは変わらないと思います。もっと言えば、先ほど家庭教育の力と話がありましたが、保護者の親としての覚悟というか、何かそういうものが薄らいできている気がします。PTA活動でも関わりたくないと思っている。そうじゃなくて、親としてやらなければならないことを、親としてやらなければならないということはあると思います。</p>
古澤教育委員	<p>家庭教育の話になっておりますが、これが言われるようになったのは20、30年ぐらい前からかなと認識しています。私が久留米市役所の青少年育成課で勤務していた頃に、家庭の教育力という言葉が使われるようになったと思います。30年ぐらい前というと、「不登校」とは言わずに「学校不適応児童」と国が表現をするような時代でして、そういう中で悩んでおられるお母様方がいるということを、市民も認知できていないような時代でありました。だから、</p>

子どもがいきなり学校に行かなくなったのを、保護者の方はどう対応していいか分からずにいたので、久留米市役所では月に1回の相談窓口を設けて、お母さん方の悩みを我々スタッフが夜11時、12時までしっかり聞くということ、年間を通してやったりしておりました。その辺ぐらいから、大きなイベントを年間通して、青少年育成課だけでも5、6回開催していました。それは単発的なことなので、市長が先ほどの話の中でおっしゃいましたように「子どもがやりたいことを応援する」というつながりも非常に大事なんだろうと思いました。家庭の教育力はどのようにしたら上がるのかということは、非常に抽象的でなかなか伝わりにくいし、誰でも自分事として捉えにくい部分があると思います。私が課長しているときには、全国の会合に行きますので、その地域の中でどういう悩みを保護者が抱えているのかを聞いて、直に伝わってくるそういう思いを、どのような形で社会に伝わるようにしていかなければならないのかということ、課題として持っておりました。

一つの例を挙げますと、学校、地域、家庭の役割の中で、どうしても苦情を言われる保護者の方が増えてきた関係もあって、何でも学校に求めすぎるということを地域の中でも聞こえてくることがありました。ある会合で、自転車通学している生徒の保護者から「学校できちんと自転車点検してもらえるのでしょうか。うちの子は、自転車の電球がつかないと言っていましたけど。」という発言がありました。そしたら、それに参加していたおじいさんが「それは親がきちんと責任を持って子どもの自転車点検をしないといけないだろ。」という感じで言われたんですね。その会合では「そこは家庭のしつけですよ」といった部分に言及することで、それは納得してもらえたかなというように思っています。

それと市長の発言の中でも、鳥栖市は市外からの居住者が結構いらっしゃるということでした。久留米市も市外からの居住者が非常に多いんですね。青少年育成課の後に、私は子ども未来部の次長をしておりました。その事業で「赤ちゃん教室」を行ってまして、その教室に来ていた保護者から「自分は周りに親族や頼れる人がいないけど、ここに来ると友達もできるし、スタッフの方に悩んでいることを聞いてもらえるので、非常にありがたいです。」という話を直に聞いていました。市長の話の中でもあったように、市外から居住してきた方へ響く施策をどういうふう to 実施していくか、これは担当課と連携を図りながらになるでしょうけど、そういう小さい子どもさんの育ちが、学校の授業の在り方とかという部分にもまた影響してくるのかなと思っていますので、それぞれの担当課と

	<p>の連携というのは非常に大事ではないかなというように感じたところ です。</p>
<p>大石教育委員</p>	<p>先ほど教育長から、学校と家庭と地域の棲み分けがちょっと曖昧になってきているという話がありましたが、それはもう皆さんご存じのとおり、時代背景とともに色々な状況が変わってくるので、市長もおっしゃっていたとおり、収入面の問題もあるでしょうし、今は共働きをしているので、ただ金銭的な問題だけでも時間的制約はなかなか厳しい状況にあるのかなというように感じています。家庭で言えば、自治会、こどもクラブ、PTAも含めてやる余裕がない方がとても増えてきたというのは、やってくださいと言えるものでもありませんので、もうこれもうしょうがないのかなと正直思っているところがあります。</p> <p>例えば、学校にあれこれ問題を言われる保護者がいて、その対応に追われるという学校もあれば、家庭では本当に仕事が忙しくて火の車で、なかなか子どもをゆっくり見る時間もないのにそんなことまで言われても困るという家庭もあれば、地域はこんなに地域のことをしているのに誰も何も言ってくれないという地域もあつたりします。登下校を見守ってくださっている方々に対しても、例えば保護者が「ありがとう」と言わないという場合もあつたりします。地域とのつながりが崩れかけているというこの状況が、本当にゆゆしき事態なんだろうなというように思っています、当然そういう部分で家庭教育というところで、地域の方に対しても親から率先して「ありがとう」と言えば、子どもも自然と「ありがとう」と言えるようになると思います。そういったところも、積極的にやっていきたいのですが、なかなか解決策を見出すことも難しく、教育委員会等の行政も含めて、そういう地域の努力義務という形で地域にご協力いただいていることもたくさんあると思うので、そこら辺も地域に丸投げした状態ではなく、鳥栖市全体として「ありがとう」という感謝の気持ちを押し出していきながら、やっていただけると色々なところがまた見えてくるという気がしています。</p>
<p>戸田教育委員</p>	<p>私も今までずっと話出ておりました地域と学校との役割関係について、市長のお考えを聞ければなと思っております。二つありまして、一つは教育の持続可能性にとっての地域の果たす役割、もう一つがその逆で地域の持続可能性にとっての教育の果たす役割についてお尋ねしたいです。</p> <p>一つ目については、先ほどの部活動の話もそうですけれども、その先生方は働き方改革が必要なほど大変お仕事でご苦労なさっていて、それで成り手も少なくなっているということが様々なところで</p>

	<p>報道されています。その中で、地域、行政、家庭がどういった役割が果たせるのか、先ほどの部活動の地域移行というのは、そのうちのひとつだと思いますが、それ以外でも、先生方のご負担を減らすために、地域の理解、家庭の理解みたいなところを広めて、もっとできることがあるのではないだろうかという市長のお考えを聞かせていただければと思います。</p> <p>二つ目は、何でも学校にというのは大変だと言いながらも、やはり地域のために学校や教育が果たす役割は、非常に大きなものがあると思います。先ほど鳥栖市は市外からの居住者が多いという話がありましたけれども、新しく転入した方にとっては、最初に地域と関わる接点は恐らく教育だと思います。その中で、どのような形でその地域に入ってもらえるのか、横の関係を作っていただくかといったところで、学校だけではないと思いますが、教育の果たす役割というのは大きいと思います。</p> <p>それから、鳥栖市では全中学校区で「コミュニティ・スクール」という形で、地域、家庭、学校が連携して教育のために取り組む仕組みを作っています。地域的な範囲が中学校区ということで、市が取り組んでいるまちづくりの単位と重なっていることから、「コミュニティ・スクール」に関わっていらっしゃる方々は、地域のまちづくりの取組でも関わっていらっしゃる方々と重複するところもあります。その重複するところを上手に活かしながら、地域にとっての教育の果たす役割をもっと上手にできるのではないかと考えております。その辺りのお考えを聞ければなと思っています。</p> <p>それからもう一つは、次世代の地域をよりよいものにするために、その地域を担っていく子どもたちをどう育てるのかという意味で、教育の果たす役割というのはあると思います。その辺りの市長の考えをお聞かせいただければと思っています。</p>
向門市長	<p>まず持続的な先生方の働きやすい環境ということに関しては、先ほどお話したように、私たちの時代には、平日は3時か3時半に授業が終わってしまっていたので、恐らくその後に翌日の授業の準備をしていたと思います。今は、恐らく4時半ぐらいに授業が終わって、翌日の準備で、多分7時か8時ぐらいまで学校に残っていらっしゃると思います。そして、朝は児童生徒が来る前の7時半ぐらいから学校にいらっしゃると思います。また、保護者からの色々な要望等もあると思うので、その対応もしなければならぬ。ましてや中学校の先生は、土日も部活動の指導をしている。そういった環境であることから、なかなか先生の成り手が少ないだろうと思います。国の制度上の問題だと思いますが、授業時間を減らすとか、その一環</p>

で部活動は土日を切り離しましょうというのがあると思いますし、平日の授業時間の在り方など、そういったのも考えていかなければならないと思います。それでやはり、最初先生たちは子どもが好きで先生になった方たちばかりだと思いますが、だんだん業務が負担になってきて、私が聞くところによると、中学小学校でも心の悩みが生じて休まざるを得なくなった先生も増えていると聞いているので、その環境を見直して整えていくことが必要だと思います。

また、私は保護者との関わり方も見直さなければならぬと思っています。よく「モンスターペアレント」という言葉が出てきますけれども、そういった保護者が増えてきたことで、その対応に学校の先生がすごく追われていて、それに対する精神的な苦痛もあって、学校の先生の成り手が少なくなっているのではないかと思います。私は県議会議員もしていたので、県教育委員会の職員と教職員の採用の話をする時、やはり先生の成り手が少なくなっているのと、もう一つ昔は倍率が5～7倍と高くて、その中で先生を選べたということですが、今は倍率が低いので、どうしても先生を選べないというような話もしていました。そこで、今後やっていかなければならないのは、保護者との関わり方を考えていく必要があると思っています。

もう一つ、地域の教育力に関して言えば、私がお世話になった方から「地域3世代構想」という話があって、その方は、本来は子どもがいて親がいて祖父母がいてというように、家の中で3世代がうまく家庭として機能していたのが、現在は核家族で子どもと親しかいない家庭が増えてきたので、そこを地域で子どもたちを見ていくような環境を作っていかなければならないという提唱をされていました。そういった中で、伝統的な地域の行事に、お子さん、親子さん、高齢者、地域の方にも出ていただくような場を作っていくということが必要だと思います。私は若葉地区ですけれども、まちづくり推進センターに「まちづくり推進協議会」があって、その中で一生懸命子どもたちと関わられるような取組をしています。例えば、子どもたちと餅つき大会をしたり、グラウンドゴルフ大会をしたりとか、地域に関わる場所を作っています。そこで上手く連携をとれるように、もっと後押しをしてやるのか、まずは小学校区で地域3世代ができるようになれば、おのずと中学校区でもできると思うので、そこを上手く連携が図れるように、行政が後押しをしていかなければならないと思います。しかし、地域の自主性をどう育てていくかとか、芽生えさせるかということが大事だと思います。

大石教育委員

「まちづくり推進協議会」「コミュニティ・スクール」「学校運

	<p>営協議会」の構成員は、大体同じ顔ぶれになっています。それだけ地域に根づいた方々が、積極的にご参加いただいているということだと思います。市長がおっしゃったとおり、各まちづくり推進協議会の行事に子どもたちを参加してもらおう取組、コミュニティ・スクールに地域の方に参加していただく取組など色々な動きをしています。特に子どもたちに伝統文化も含めて地域のことを知ってもらって、鳥栖市を故郷として思ってもらいたいという考えのもと活動しています。しかし、なかなか親が出てこない子どもは出ないです。どうしても親が笑わないと子どもも笑わないです。なかなかそういったところも難しいので、各地域は本当に苦労しているなど本当に感じていて、市長も先ほどおっしゃっていましたが、そういったところは支援というか、後押しをしていただければぜひお願いをしたいなと思います。</p>
古澤教育委員	<p>少し話がそれるかもしれませんが、教科「日本語」を実施していますよね。この教科「日本語」は、全国に誇れる授業の一つだと思っております。それと同じように、例えば、子育てなどで上手に鳥栖市らしさを発揮できるような施策を関係の所管と連携をして、これから実施していくことも大事だと思っています。何故こういうことを申し上げるかという、それこそ子育て世代に人気の高い流山市や明石市では、そういう子育て支援の施策をたくさん実施している事例があるからです。明石市では「こどもを核としたまちづくり」ということで施策を進めています。それと流山市は、人口増加率が全国1位と、子育てしやすい街ということで、外から転入してきています。だから、そういう魅力のある子育て施策、子どもの学習の保障をセットで施策として出せないかなというように、個人的には以前から思っておりました。どういう施策がこれに見合うかというのは検討しなければなりません、何か知恵を絞って探っていったらどうかと思います。</p>
向門市長	<p>財政的な問題もありますので、そういうところをしっかりと検討させていただいて、いずれにしても若い世代の人たちが集まってくるような鳥栖市にしたいと思っていますので、そういったことには取り組ませていただきたいと思っています。</p>
佐々木教育長	<p>教科「日本語」について、一言よろしいでしょうか。学校の一番の目的は、子どもたちにどういう力を付けるかということだと思います。子どもたちに付けたい力ということで、この教科「日本語」は、「子どもたちが自ら自分たちのまち、自分たちの文化というものについてしっかり見つめて、その課題を自分たちで解決していく、その考えを深めていく」という目的で取り入れています。そのとき</p>

	<p>に、鳥栖市の子どもたちに、日本や佐賀県、鳥栖市の文化、伝統行事も含めて、しっかりとそれらを身に付けていただいて、鳥栖市は素敵なおところだなと言って欲しいと思っています。本来総合的な学習の時間というのは、子どもたちが「自ら学ぶ力」「これから必要な力」を身に付けるための教科ですが、その総合をさらに進化させたものということで、この教科「日本語」でやっていきたいと思っています。そういう意味で、学校で子どもたちが本当に学ばなければいけない地域のことや人との関わり方をここで学んで、自分たちのまちを好きになって、そこからまちに働きかけていくということも含めてやっていくことが、地域のためになっていくのではないかと思います。この教育の質を上げて、教科「日本語」を中心にするという言い方は余りにも大げさかも分かりませんが、それを進めることによって、鳥栖市をより持続可能なものあるいは魅力あるものにしていければと思っています。</p>
古澤教育委員	<p>先ほど、市長から保護者との関わり方の見直しも必要ではないかというご発言がございました。保護者は、それこそ子どもの対応とかご自身のことで分からないということも結構多いかと思っています。その悩みを誰に相談したらいいかも分からないと思います。相談できる方が地域にいらっしゃる方がいいのですが、警察には敷居が高くて相談できない。だから、保護者の方も気軽に相談できる体制づくりというの、これからは必要ではないかなと思います。地域で講演会や色々な活動をして、本当に聞いていただきたい保護者には意外とその場に足を運んでいただけなかったりします。だけど、子どものことやご自身のことで、どう対応したらいいか分からなくて、ぎりぎりの精神状態になったときに、相談できる窓口が市役所にもあれば随分と違うと思います。だから警察署だけではなくて、市役所にも格好いいネーミングで相談窓口を開設できればいいなと個人的には思います。</p>
向門市長	<p>僕から一つだけ質問してもよろしいでしょうか。コロナ禍を経て不登校が最近増えてきたという印象があります。不登校の子が学校に戻ることができれば一番いいのですが、そうでもない子どもたちも増えているような気がしています。その中で、フリースクールの話も少し話題として聞いたりしますが、その辺については、教育委員会として不登校対策についてどうお考えかを聞かせていただいてもよろしいでしょうか。</p>
佐々木教育長	<p>不登校が多くなってきている問題は、社会性やコミュニケーションがなかなかとれない子どもの問題であったり、それから様々な課題はあると思います。現状では、不登校になって学校に戻すことが</p>

	<p>第一の目的とならずに、それぞれの子どもに応じた対応していかなければならないと思っています。現在の不登校の子どもたちへの対応については、フリースクールや教育支援センター「みらい」で対応していきたいと思っています。しかし、そもそも子どもが不登校になる要因となるようなものを、例えば自己肯定感を高めてあげるかというようなことも大切だと思っています。小学生になると周りと比較できるようになってきて、その中で自分はどのような位置なのか自分で判断できるようになります。その中でも、自分は自分としてのすごく価値のある存在であるという肯定感をしっかりと高めてあげることが、学校の中で必要だと思っています。それから、学校の中で、コミュニケーションを図って元気を出してもらうとか、周りとの人間関係づくりということも行う必要があると思います。様々な方法があるかと思いますが、子どもの状態を見ながら励ましてあげたり、それから背中を押してあげたりというようなのを、教員の側はしっかりと子どもを見てやっていかなければならないと思います。具体的な解決はなかなか難しいかも分かりませんが、学校で取り組んでいかなければならないと思っています。</p>
古澤教育委員	<p>決して周りの人と比べる必要はないということを教える必要があると思っています。それとどんな小さなことでもいいので、ちょっとした成功体験を数多く積ませることも大事だと思っています。これは家庭の中でも、例えばお手伝いができたら、しっかりと褒めるといったことも大事だということを、保護者にも伝える必要があるでしょうし、学校でも上手に片づけができたときには、しっかりと褒めるといったことを繰り返していくと、少しずつ自分に自信が持てるようになるのではないかと考えています。特に不登校になられた方の背中への押し方というのは非常にデリケートで難しい部分があるので、そこら辺を重ねて自分で大分エネルギーが付いたと感じてもらえるようなやり方ができればいいと思います。</p>
大石教育委員	<p>不登校の件ですが、先日、各校区で学校側から配信する「マチコミメール」でその内容が配信されていますので、少しだけ読ませてください。タイトルが「不登校や学校へ行き渋るお子様のことでお悩みの保護者様へ」ということで、「鳥栖市が提供する不登校児童生徒やその保護者への支援についてまとめたものを添付いたします」という大変きれいにまとめた資料でした。「これはうちの子は学校に行きたくないと言いつつ、既に不登校になって家から出ようとしない。子どものために何ができるのだろう。どこに相談したらいいのだろう。こんな悩みや不安を抱えている保護者の方々に向けたものです。不登校になることは決してお子さんの努力不足</p>

	<p>や、家庭のしつけ不足といった自己責任の問題ではありません。お子様が学校に行かないことで悩まれていることも多いと思います。が、学校に無理やり戻そうとするのではなく、お子さんが安心して自信を持って過ごせる環境や、経験を少しずつ増やしていくことが大切です。焦らずに今できることを探していきましょう。不登校の子どもたちやその保護者の皆様がこれからの見通しを立てていくために、鳥栖市が行っている登校児童生徒への支援について簡単ではありますがまとめてみました。」ということでチラシを配布していただいています。大変良いものを資料としてまとめてくださっていますので、メールをどこまで見ていただいているかよく分かりませんが、もっと見ていただいて、鳥栖市はここまで色々な取り組みをしているということを知っていただくことも、とても大切なのかなと感じました。</p>
佐々木教育長	<p>最後に、一言だけいいでしょうか。学校の質を上げる、教師の指導力を上げるということが、やはり一番の方法だと思います。先ほどの不登校の問題にしても、いかに先生たちが子どもの様子や状況を見取れるかということがすごく大事だと思います。それを見ることが出来る先生は、ちょっと落ち込み気味かなと思ったら、そこで支えることができたり励ますことができるわけで、そういう先生の力量をしっかり付けていきたいと思っています。そのような中で、子どもたちが学校で学んでよかったとか、学校が楽しいとかというような学校づくりができればいいと思っています。子どもにとって、一番の教育環境というのは教師だと思っています。私は、この立場にさせていただいていますので、教師の指導力を、ぜひ今後も高めていきたいと思っています。市長のお考えをお聞きしながら、子どもたちのために、子どもたちが鳥栖市を大好きと言ってくれるような教育を進めていきたいと思っています。</p>
佐藤教育総務課長	<p>長時間のご議論ありがとうございました。これで第18回鳥栖市総合教育会議を終わらせていただきます。</p>